

読み解く力の育成

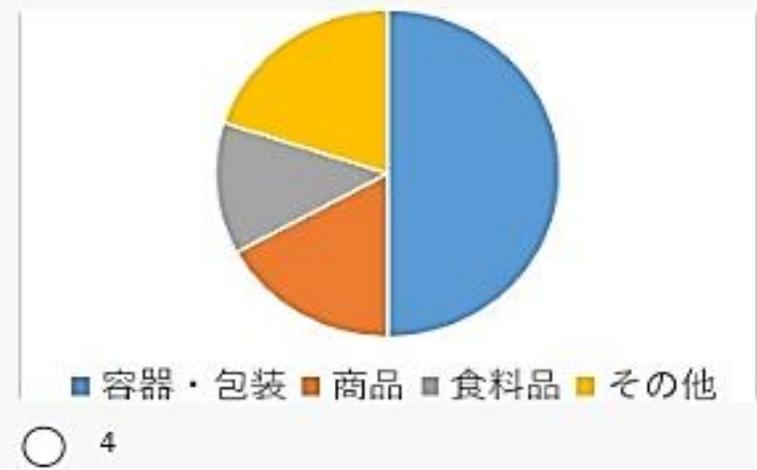
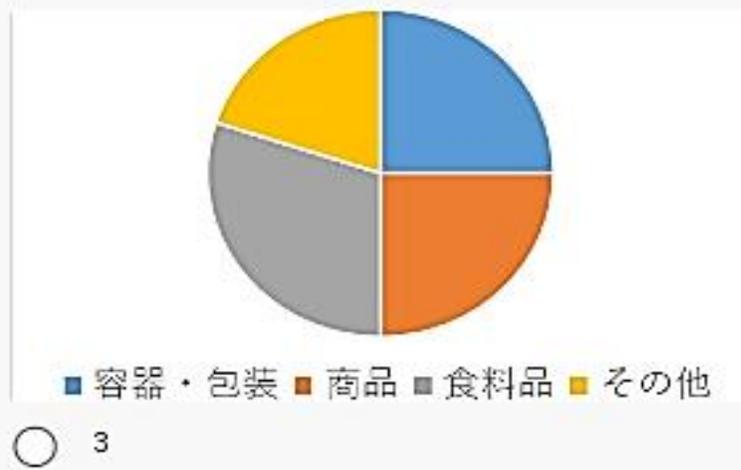
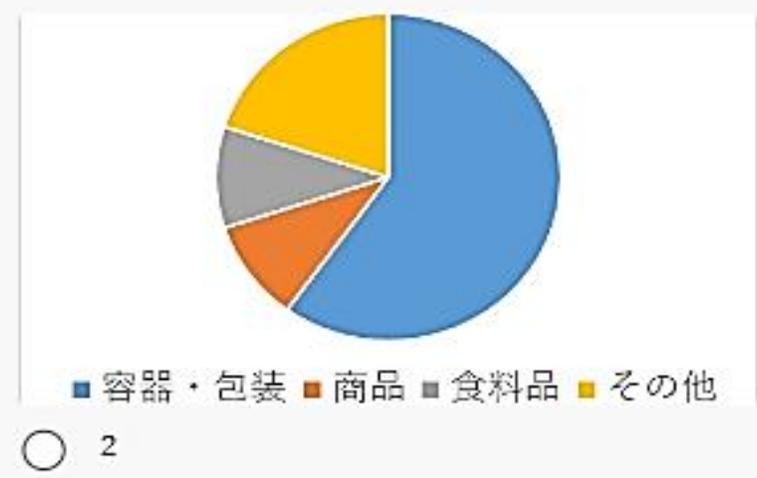
～社会科を通じた読み解く力の育成に視点をおいた授業提案～



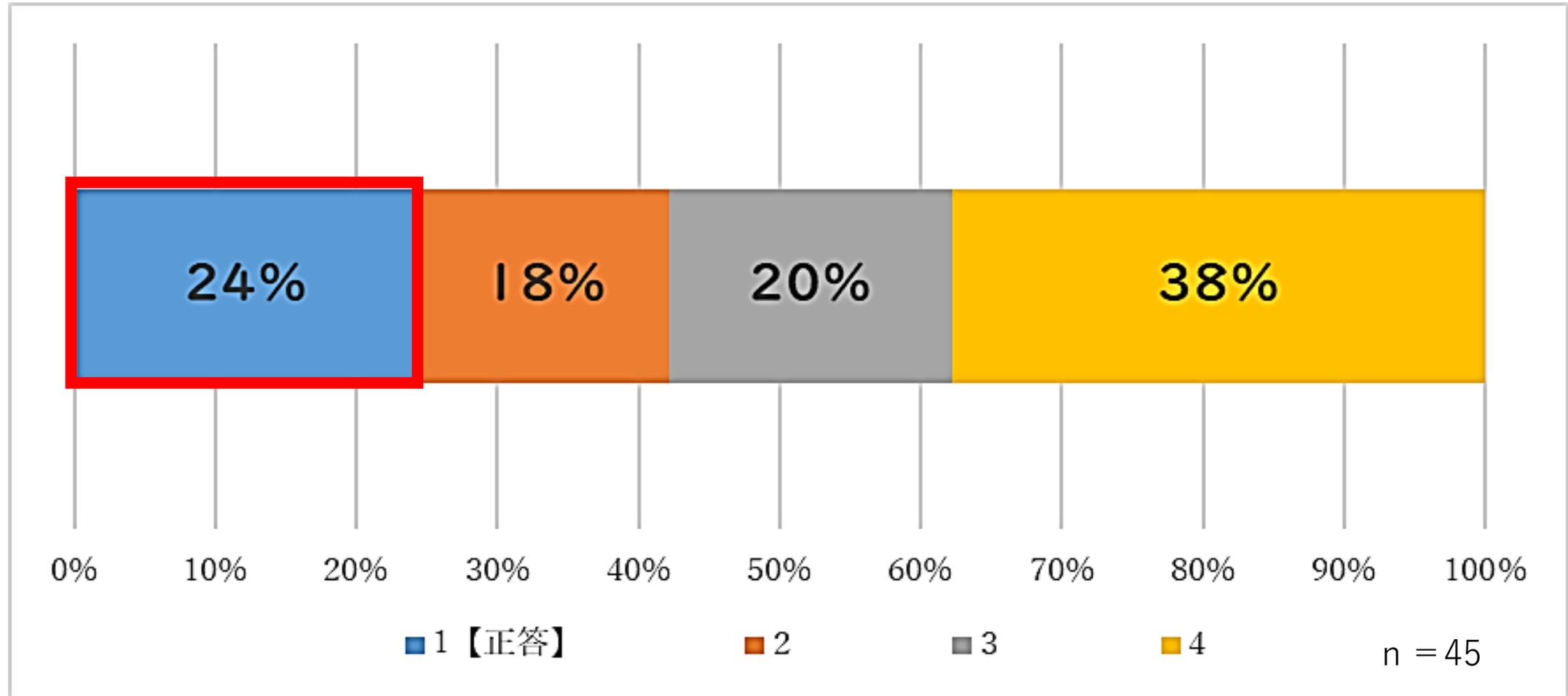
京都市総合教育センター 研究課 研究員
中村 寿樹

読み解く力実態テストの問題

京都市の家庭ごみは、容器・包装、商品、食料品の3つで8割を占めており、そのうち5割が容器・包装である。



読み解く力実態テストの結果



文とグラフを結び付けることが苦手

読み解く力の定義

定義

連続・非連続型テキストから目的に応じて情報を取り出し、課題解決のためにそれらを関連付けるなど活用して思考し、解決のプロセスを筋道立てて説明する力

情報を取り出す

筋道立てて説明する

活用して思考する



昨年度の「読み解く力」を育む取組

調べる活動

情報を取り出す

筋道立てて説明する

修正する活動

活用して思考する

使う活動

「グラフ作成ワークシート」
「論証フレームワークシート」

研究仮説

研究仮説

- ・ 必要感をもって(教科書などを)読む
- ・ 取り出した情報を構造化する

ことによって、読み解く力が高まる

理科から社会科へ

- ・ 複数の文を関連付けて思考する学習
- ・ 図表等から取り出した情報をもとに思考する学習

研究の概要 (必要感をもって読む・取り出した情報を構造化する)



平氏を中心となる人物は誰ですか？

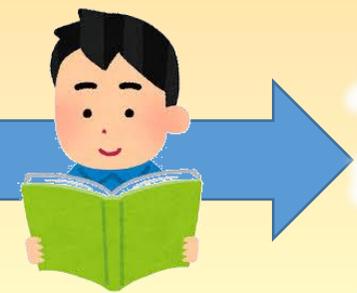


目的をもった読み

平清盛 です。

- 確認や詳細理解のための読み
- 具体の連想

思考を伴う読み



武士団の中で力の強かった平氏と源氏が戦って、平清盛を中心とした平氏が勢力をのばしていった。

「読み解く力」を育む取組

目的をもった読み

読み解きチャレンジ

情報を取り出す

学びマップ

筋道立てて説明する

活用して思考する

思考を伴う読み

授業での位置づけ (A校)

- 前時の学習内容の確認
- 本時の学習問題の設定
- 読み解きチャレンジ

(3分で解き、2分で見直し)

- 学びマップを活用して一人学び
- 全体交流
- まとめ

「読み解きチャレンジ」のねらい

学習問題「武士はどのようにして力をつけていったのだろうか」

教科書p.47の③「平清盛の年表」の資料の説明として間違っているものはどれですか？

- 保元の乱や平治の乱に参加している。
- 50才で太政大臣になる。
- 62才のころ、中国との貿易を進めた。
- 63才のころ、息子が天皇になる。



GIGA端末 (Forms)

目的をもった読み

どこが間違っているのかな？



フィードバック機能を使ったアドバイス

教科書p.47の③「平清盛の年表」の資料の説明として間違っているものはどれですか？

- 保元の乱（ほうげんのらん）や平治の乱（へいじのらん）に参加している。

フィードバック:年表を読み直してみよう。年表から平清盛は保元の乱や平治の乱に参加していることがわかるね。

- 50才で太政大臣（だいじょうだいじん）になる。

- 62才のころ、中国との貿易を進めた。

- 63才のころ、息子が天皇になる。

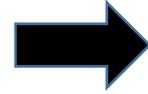
もう一度読んで
確認してみよう



「読み解きチャレンジ」の実践の流れ

教科書を読んで解答

フィードバックで確認



読み解きチャレンジ

教科書を目的をもって読み、一人学びに生かす!!

- ① 学習問題を確認
- ② 問題を読んで、教科書で確認して答える(3分)
- ③ 解答送信
- ④ フィードバックを見て、教科書を見返して答えを確認(2分)
- ⑤ フィードバックをもとに、一人学びを始める

「学びマップ」のねらい

学習問題「武士はどのようにして力をつけていったのだろう」

武士の世の中へ No.2

[]月 []日 []番 名前[]

矢印記号【←:つながり】、【→:付けたして〜だから〜】



① 貴族を守る武士

京都の平清盛の家の前の様子。門前には貴族を乗せる牛車と、貴族を守る武士たちがならんでいます。



② 武士の戦い(平治の乱)

平氏はこの戦いで源氏を破り、勢力を強めました。

「平氏にあらずんば」

自分の力でも読み取れた資料だ!!もう一度確認してみよう。

この資料からどのようなことが言えるかな?

この資料とこの資料は関係しているかも?

年齢	出来事
	生まれる
1156	39 後白河天皇側の武士として戦う(保元の乱)
	源頼朝の父を破る(平治の乱)
	左大臣になる
	家する
	めを天皇のきさきにする
	このころ平氏一族が朝廷の権力の多くをしめる
1179	62 このころ中国との貿易を進める
1180	63 孫が天皇になる(安徳天皇)
1181	64 死去

④ 平清盛年表



取り出した情報を構造化するために

学習問題「武士はどのようにして力をつけていったのだろう」

構造化

囲む

矢印でつなぐ

情報を取り出す

① 貴族を守る武士
京都の平清盛の家の前の様子。門前には、貴族を乗せる牛車と、貴族を守る武士たちがならんでいます。

② 武士の戦い(平治の乱)
平氏はこの戦いで源氏を破り、勢力を強めました。

③ 平清盛
武士として初めて太政大臣の地位につき、中国(宋)との貿易を進めるなど、政治の面においても力を発揮した。

④ 平清盛年表

年	年齢	主なできごと
1118	1才	生まれる
1150	39	後白河天皇御の武士として戦う(保元の乱)
1159	42	源朝敵の父を破る(平治の乱)
1167	50	太政大臣になる
1179	62	このころ中国との貿易を進める
1180	63	孫が天皇になる(安徳天皇)
1181	64	死去

「平氏にあらずんば、人にあらず」

不正治を思うように
力をつけて、反逆する人さ
はつした。

中国との貿易

物々交換
をしていて、
貴重な物を
もらうため?

源氏をたおした

源氏とは...
東日本に勢力をのびていた

平氏とは...
西日本に勢力をのびていた

協力関係にあった

貴族に仕えて力を付け
貴族を敵から守っていた?

武士団を作った

平氏の力が大きくなる

思考を伴う読み



「学びマップ」の実践の流れ

調べ学習



価値付け



調べる

教科書で「学習問題について」徹底的に調べる

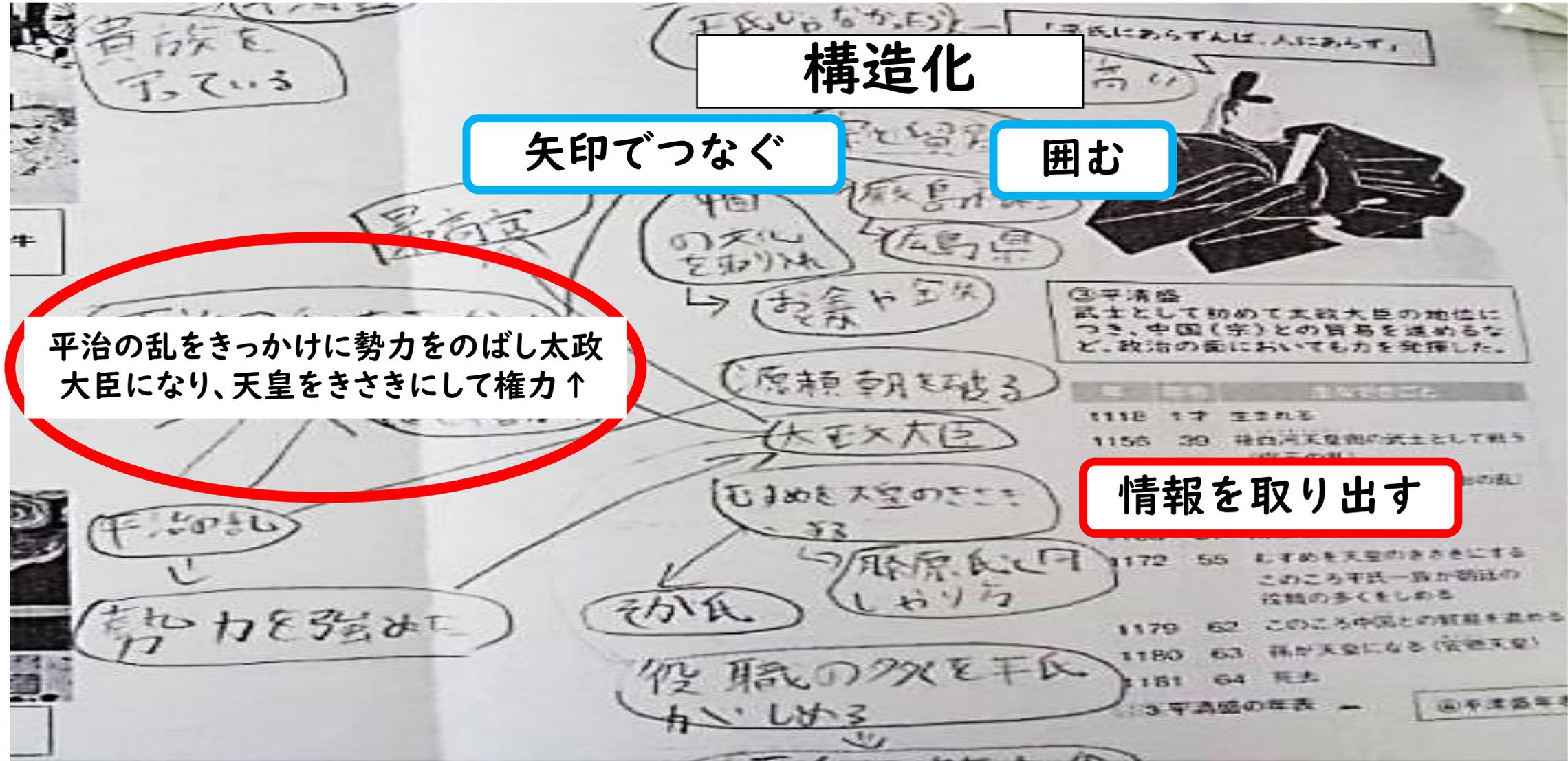
- ①文章(本文)
- ②写真資料(解説)
- ③グラフ
- ④地図

読み解きチャレンジを
思い出して!!

- ☆分かったこと・分かること(事実) ⇒ **考えたこと**
- ☆他の資料との関連

「学びマップ」の記述例 (A校)

学習問題「武士はどのようにして力をつけていったのだろう」



授業での位置づけ (B校)

【毎時間】

- 前時の学習内容の確認
- 本時の学習問題の設定
- 学びマップを活用して
一人学び
- 全体交流、まとめ

【単元末】

- 単元の学習問題の確認
- 読み解きチャレンジ
(5分で解き、2分で見直し)
- 一人学び
- 全体交流、まとめ

「学びマップ」の記述例 (B校)

学習問題「織田信長はどのようにして天下統一を目指したのだろうか」

② 信長の勢力拡大の様子



③ 信長と安土城



④ 信長の政策「商業都市の支配」



⑤ 信長の政策「商業都市の支配」



矢印でつなぐ

税金がめった
織田 = 発展
城下町
人・物集まる
お金
武器
安定 - 信頼 UP
人・物がなくなるのをふせく
せ、かく発展させたいから

困む

商業や工業の発展(楽市・楽座)
城下を活性化するために、市場に税金をかけるのをやめ(楽市)、古くからの商人たちの特権を廃止する(楽座)という制度を定めて、だれでも自由に商売ができるようにしました。これにより、商業や工業が発展しました。

信用を
市民のために? 得る
戦いのため?

情報の保護

強い勢力
信長の勢力
信者 Get
仏教 ×
キリストの信頼えられる
役に立つ
これとして

支配 (自分)
市民より戦い?

キリスト教の保護
当時強い力を持っていた一向宗などの仏教勢力を弱めるため、キリスト教の布教や神学校を建てることを許可し、保護しました。また、外国の新しい文化や情報を取り入れました。

味方につけた?

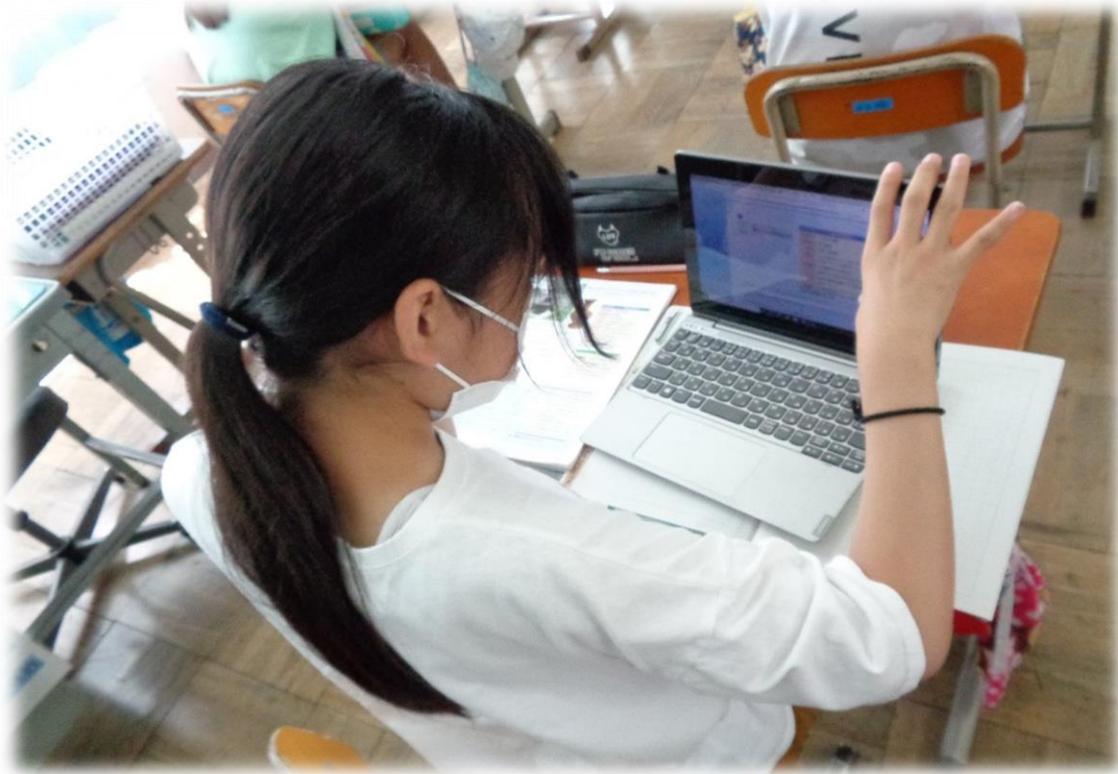
単元末の「読み解きチャレンジ」

学習問題「どちらが天下統一に大きな働きをしたのだろうか」

織田信長がしたことを説明している、教科書p.70から、読み取れないものはどれですか？

- 豊富な資金をもとに、大量の食糧や軍船などの武器をそろえた。
- 堺などの商業都市を支配したことで、豊富な資金が手に入るようになった。
- 桶狭間の戦いで大軍の今川氏を破り、武力による天下統一に向けて動き出した。
- 有力な大名をたおしたり、将軍の足利氏を京都から追放して室町幕府をほろぼしたりして、勢力を拡大した。

「読み解きチャレンジ」の効果



○自分で情報を取り出すこと

- ・文章と図表を結び付ける
- ・必要な情報を見つける



目的をもった読みの習慣化

取り出した情報をもとに思考する

「学びマップ」の効果



- ・取り出した情報を書き込む
- ・関係することを結ぶ



情報のつながりを意識して構造化

思考を伴う読みの習慣化

取り出した情報をもとに思考し、説明する
⇒読み解く力の高まり

成果と課題

- ①記述の変容から
- ②児童へのアンケートの結果から
- ③研究協力員への聞き取り調査から

①記述の変容から

9月

学習問題「源平の戦いで源氏は
平氏をどのように破ったのだろうか」

源頼朝は4才のときに伊豆の
族のほうにどうして東国の武士
ちととも平氏を打ちつこうと兵を
あげた。
4、5年でずっと戦いがあつた。
いどうをして戦っている。
海と山でも戦っている。

教科書の一部の視写

11月

学習問題「幕府は外国やキリスト教信者に対して
どのような取組をしたのだろうか」

外国との貿易を保護した。
短い文でまとめる
鎖国→200年以上も続いた。
幕府の政策
キリストの像を足踏んど信者でない
とせしめら明した。
矢印



情報を取り出し整理して記述

①記述の変容から

9月

学習問題「武士は元とどのようにして戦ったのだろう」

④ 元との戦い (文永の役)

③ 戦力の規模と戦い方

戦力の比較

項目	日本軍	元軍
兵の数	約10万人	約100万人
馬の数	約1000頭	約10000頭
武器	弓、矢、刀	銃、砲、刀

約20km 自己負担

日本が勝た?

有利!!

苦戦していた?

せい分

元が2回 せめてきた!

借金

① 元との戦いの年表

年	出来事
1268	北条時宗が執権となる
1271	モンゴルが国名を元とする
1274	元が日本にせめてくる (文永の役)
1276	博多灣に防塁を築く
1281	ふたたび元がせめてくる (弘安の役)
1287	幕府が借金を増殖しする法令 (徳政令) を出す

11月

学習問題「家光はどのようにして強い幕府をつくろうとしたのだろう」

参勤交代

これをしたら反乱がおきない。お金がかかる

費用がかかる

税金のおは?

③ 参勤交代にかかった日数

参勤交代の道すじ	日数
五街道	約7日
参勤交代の道すじ	約30日

江戸時代の大名が幕府から与える【藩】は、治めていた領地のこと。もしくは、領地を支配していた大名を中心とする政治組織を指します。全国に300以上の藩がある

逆らたら殺される... 参勤交代

借金

→取り出す情報量の増加、情報同士の関連付け

①記述の変容から

9月

学習問題「武士は元とどのようにして戦ったのだろう」

元は兵の数も多く力があつたが、
風雨のため2回せめてきたけ
ど日本が勝つた。

11月

学習問題「家光はどのようにして強い幕府をつくらうとしたのだろう」

家光は大名取りしめるために武
家諸法度に参勤交代を定めた。
参勤交代を定めたら費用がかかる
し、反乱が起きない。けど大名の
妻と子供を人質にして逆らつた
ら殺されるから大名の勢力を弱
めて強い幕府をつくらうとした。

取り出した情報を根拠にして自分の意見を書くことができているか。

実践前

65%

実践終盤

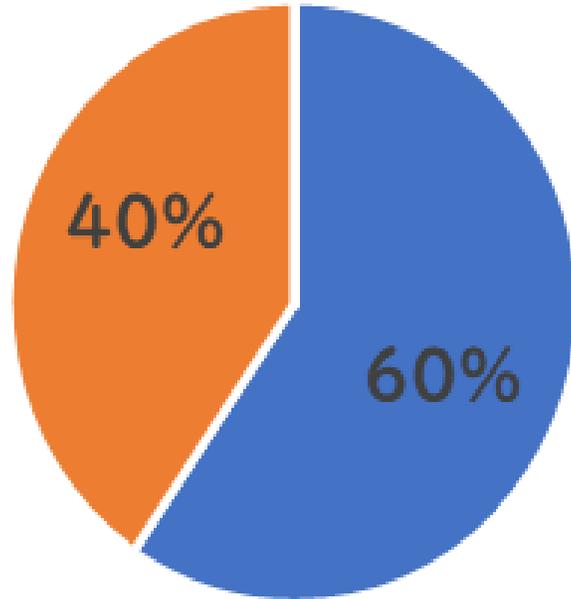
85%

→具体的な内容の記述
複数の情報を根拠に記述

②児童へのアンケート結果から

「読み解きチャレンジ」は自分の学びに役に立ちましたか。

n = 42



- とても思う
- 思う
- あまりそう思わない
- 思わない

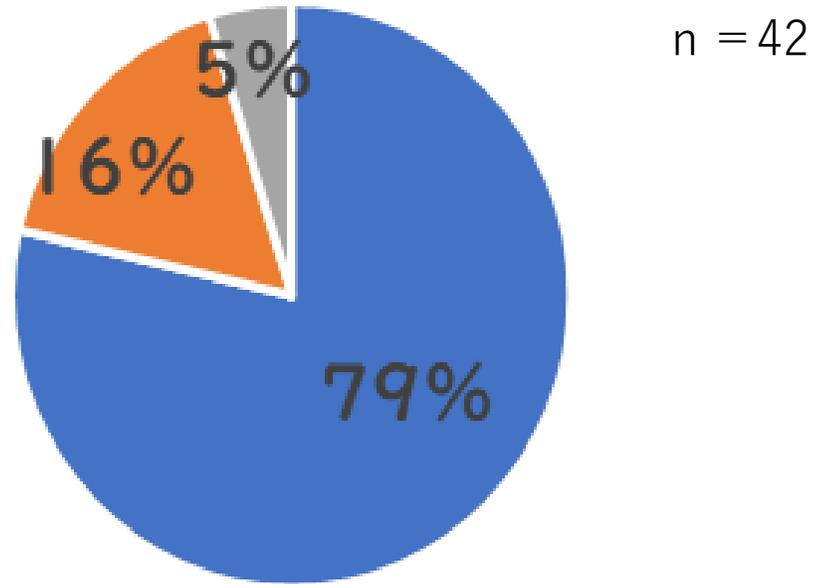
「見直すことができる」
「復習することができる」
62%の児童が理由に

- ・ 文章だけでなく図などを読み取ることができるようになった
- ・ 文章を読み意味や間違っているところを見つけることで読む力が付き、頭の中で復習できる

→必要感をもって教科書や資料を繰り返し読むことが
情報を取り出し、正確に理解する

②児童へのアンケート結果から

学びマップを使うことは、自分の学びに役に立ちましたか。



- とてもそう思う
- そう思う
- あまりそう思わない
- 思わない

「資料と資料を関連付けて考えることができる」
「考えをまとめることができる」
45%の児童が理由に

- ・ 資料から情報を読み取る力や考える力がついた
- ・ 「ここなんだろう」と自分で調べる機会が増えた

→情報を構造化する中で教科書や資料を
思考を伴って読むことが自分の考えをもつ

②児童へのアンケート結果から

学習内容を理解するために、最も頼りになるのは何ですか。

n = 43

実践前



教科書

ノート
プリント

先生の説明

クラスメイトとの交流

実践後



0%

20%

40%

60%

80%

100%

→調べる学習活動を保障することで
説明をきいてわかることから、自分の力で読み、学ぶことへ

②児童へのアンケート結果から

- ・読み解きチャレンジの問題内容と教科書を照らし合わせて調べるなど、たくさんの調べ方を見つけることができた。
- ・教科書でわからないことがあればパソコンで調べたり、読み解きチャレンジを参考に考えることができた。
- ・これまで資料とか見ないで文から意見を書いていた。資料を見て考えることをしていきたいです。

→情報を見つけだし、考えをもつための学習方法について
気付くことが、自分の力で学ぶことにつながる

③研究協力員への聞き取り調査から

○児童の変容

- ・どの学力層にも変化があった
- ・読むことの習慣化

○課題

- ・読み解きチャレンジを活用することについて

まとめ

- 指導者の「読めているのだろうか？」という視点
と「読む」活動の設定
→「読むための目的」
「自分自身の力で読む場」
- それぞれの教科で高めていく必要性

「資料から読み取る力や考える力がついて、自分の考えを書けるようになった。
考えるのが楽しい」



読み解く力の育成

～社会科を通じた読み解く力の育成に視点をおいた授業提案～



アンケート用QRコード

京都市総合教育センター 研究課 研究員
中村 寿樹